

ウクライナ：戦争の拡大が見えているか

——真夜中までナノ秒？

Dr. Paul Craig Roberts

Global Research / March 03, 2022

あたかも、高度に成功したロシアの軍事行動として始まったものが、クレムリンの高官による道化の行動に変わりつつあるようだ。彼らは、ロシアの行動が善意によるものであることを、示したいあまりに、ウクライナへの介入を、ヨーロッパ紛争の拡大に導くかもしれない笑劇へと変えてしまった。

ウクライナは大して軍隊はもっていない。しかし彼らは、行軍を続けるロシア軍を止まらせる、強力な言葉をもっている——交渉だ。

ゼレンスキーがその言葉を述べた。そしてプーチンは侵攻をやめた。

クレムリンは、2度目、この罠にかかり、交渉係を Gomel に送ったが、ゼレンスキーは再びだんまりを演じた。これは奇妙な状況である——戦争に勝っている方の国が、交渉を必死に求めているのだから。実際、ラヴロフもプーチンも、どれほど交渉を求めているかについて、沈黙することはできない。ロシアは戦争に負けつつあると結論する人があるかもしれない。プーチンは、イスラエル首相のナフタリ・ベネットを説得して、モスクワはキエフと話す用意があることを、わからせねばならない、とさえ感じた。イスラエルはウクライナの名士を応援しているのだから、言って聞かせることのできるのは、イスラエルだと普通は考えるであろう。これを見よ。 <https://sputniknews.com/20220227/putin-assures-israels-bennett-russia-ready-to-talk-to-ukraine-says-kyiv-showing-inconsistency-1093419609.html>

普通は、侵攻を止めるには、ショックから回復し、戦列を建て直す時間を、敵に与えるものである。確かにショイグー（ロシア軍事権威）はこれを知っている。それが更に悪いことには、結果を遅らせることによって、ヒステリックで完全に愚かな西側には、戦争を拡大する機会を与えることになるのだ。

米/NATO は、彼らの軍隊のヨーロッパ配備を拡大し、兵器をウクライナに送りつつある。Stoltenberg は、自分が責任をもてない脅威を送っている。

フィンランドの愚か者どもが、NATO に参加して、フィンランドへの一票を得ようとしている。これは、プーチンがすでに、許すことができないと言った狂気の行動である。ドイツはその考えを変えて、今、ドイツはウクライナに兵器を送っていると言っている。ドイツも、アメリカも、NATO も、軍隊を送ることについて考えを変えるつもりだろうか？ ロシアが役目を果たすのが遅れる 1 時間ごとに、西側の愚か者たちは、戦争に突入する機会をますます大きくしている。

南北戦争時の戦争犯罪人ウィリアム・シャーマンが言ったように、「戦争は地獄である」。

クレムリンは、地獄なしに戦争を行おうとしている。その結果として、ナチの民兵たちが、自分自身と彼らの兵器システムを、一般市民の間に備えつけている。ロシア軍は、市民の領域には発砲しないように命令されているから、制圧はトラック隊として止まっている。

人は、市民たちを助けるクレムリンの決断を理解することができる——ひとたびウクライナが脱ナチ化されたら、ロシアは、ウクライナと良い関係を持つことを願っているとして。

しかしクレムリンは、西側から、称賛を期待して、よい意図を見せているのではないかと勘違いされている。

ロシアがやることは何でも、最も黒い言葉に描かれる。一方、すでにウクライナのナチ民兵たちは、「自由戦士」として称賛されている。

西洋のメディアの仕事は、虚構を事実、そしてウソを真実の変えることである。

ロシアの戦争犯罪物語は、すでに、この戦争の 2 日目までに確立された。たとえばここに、Bloomberg Evening ブリーフィングの 2 月 25 日号があるが、これはすべての売春新聞が言っていることである：——

「ロシアの侵略は、市民領域への無差別攻撃と、病院のような保護された施設への砲撃が特徴である、と Amnesty International は言っている。…ロシア人は幼稚園や孤児院を砲撃している。」

こうした攻撃や、無差別砲撃と言われるものにもかかわらず、「アムネスティ・インターナショナル」は、死者のリストには 140 人しか挙げておらず、「ブルームズバーク」は、これが民間人だけなのか、兵士やネオ・ナチ民兵を含むのかを、言っていない。これまでのとこ

ろ、ロシア兵の侵攻は、子どものサッカー試合や、結婚式や葬式への、一度のアメリカの攻撃分くらいしか殺していないように思われる。

軍事的な面ではロシアが優勢だが、プロパガンダ面では、ロシアはいつも圧倒的に負けている。

その理由は、ロシアはいつも、イニシアティブを取ることができず、完全に受動的だということだ。ロシアの制裁に対する反応は、これまで全く弱弱しいものだった。

ロシアはヨーロッパに対し、パイプラインを切ったり、ドイツの工業をシャットダウンすることができても、エネルギーを供給し続けてきた。しかもロシアは、ドイツがウクライナのナチ民兵に対する兵器供給を宣言しても、何もしていない。

ロシアの資産は押収され、ロシアは(中国と共に)いまだに馬鹿々々しくも依存している、SWIFT(国際銀行間通信協会)という消去メカニズムから外された。そしてロシアは、ロシアにあるすべての西洋投資を国有化していない。あたかもロシアは、それが軍事的でない限り、ひき殺されるのを好んでいるかのようだ。

しかしここでさえ、ロシアは、自分が善意をもっていることを示す決意が固いので、(将棋の)手詰まりを物ともせず、戦争を拡大して、この戦争に勝とうと思っているかのようさ、思われるのである。ロシアがどれだけ言葉によって傷つけられ、どれだけ言葉がロシアを防備させるかは、実に驚くべきものである。

「愛されるより怖れられる方がよい」と言ったのは、マキアベリであった。

もしロシアが怖れられていたら、フィンランド人は、NATOに加わろうと運動はしなかっただろう。

ドイツ人とフランス人は、ウクライナのナチスに武器を送ったりしないだろう。

アメリカは、ロシア大統領を、あえて個人的に制裁することはなかっただろう。

もしウクライナが戦争拡大へと展開するなら、その責任は、ロシアの受動的な性格と、その優秀な戦力の使用を遅らせたことにあるだろう。

いかに残忍であることをロシアが要請されようと、ロシアにとっては解決に達する方がよいのだ。なぜなら、遅れることの代価はもっと高くつくからである。遅れることが我々にどういう結果をもたらしたのか：――

「プーチンはロシア核戦力に最高警戒度を要請した」

プーチンはこう説明する：

「西側の国々は、経済の領域で、わが国に対して非友好的な行動を取るだけではない。私は誰でもよく知っている、不法な制裁のことを言っているのだ。しかし、主導的な NATO 国家のトップ役人たちも、また、我々の国に対して攻撃的な言葉を発している。」

ここでもやはり、薄ノロで傲慢な西側は、プーチンの言うことを聞かなかった：

「私にはある非常に重要な、言いたいことがあり、それは、これら展開中の事柄に、**外から干渉しようと試みる**人々に対してである。誰が我々に干渉しようと、あるいはそのことによって、わが国とわが国民に対して、脅威をつくり出そうと、彼らは、ロシアが直ちに反応するであろうことを知らなければならない。そして結果は、あなたが全歴史で一度も見たことのないものに、なるであろうということである。出来事がどのように展開しようと、我々は用意している。このことについて、すべての必要な段取りは取られている。私は、私の言葉が聞かれることを望んでいる。」

そこから生ずる結果は、実際、「あなたの全歴史で、見たことのないようなもの」になるだろう。

西側の人々の中で、のんきに構える阿呆どもは目を覚ませ。あなたの薄ノロ「指導者たち」は、あなたを自殺に追い込もうとしている。

[訳者 Greatchain 注]

論者 PC ロバーツについては、<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/220207.pdf> を参照願いたい。ここには、バランスの取れた、ウクライナ情勢の（不透明な）今後の見通しと、プーチン氏についての、正確な、偏見の全くない分析が、展開されていると思う。（先に訳した）プーチンの演説など信用できるものか、という威勢のよい人たちがいたら、この PCR 論文と読み比べて、目を覚ましていただきたい。現在、メディアで報

道されているような、ロシア憎しというだけのロシア理解は、自分自身を貧しくするだけである。

新聞（PCRはpresstitute売春新聞と呼ぶ）だけなら仕方がないとも言える。しかし、国家が堂々とロシアに反旗を翻すというのは、いくら何でも馬鹿げた話ではなかろうか？ロシア憎む必要がどこにある？それはバイデン-NATO側の従僕国だから、という恥ずかしい理由以外に理由がない。最後に引用されているプーチンの言葉を読むとよい。プーチンは理由もないのに「外から我々に干渉しようとする」理由がわからない、と言っている。そして、そういう無法者に対しては、手加減せず攻撃するぞ、ということである。当然であろう。どこの国であろうと、それはまずい、自他に対し恥ずかしくもあり、しかも危険だ——ということを忘れてはなるまい。